

# 編集後記

学会ニュース第88号をお届けいたします。今号は、9月にWEB大会として開催された学会大会報告、そして、新たに名誉会員となられた小林良二会員、学会賞受賞者でいらっしゃる西崎緑会員、平野隆之会員、田中智子会員の御挨拶を掲載しております。

学会大会は2回目のWEB大会となりました。御報告では、どの地域からも参加しやすいWEB大会ならではのアクセス性の高さに触れています。私たちは、新型コロナウイルス感染症(Covid-19)によって新たに身に着けたコミュニケーションの様式の強みを生かし、次第に使いこなしてきているように感じます。同時に、発想の苗床ともいえる雑談をはじめとした“ゆるやかな繋がり”の醸成を、いかに実現するかは課題だといえそうです。

名誉会員になられた小林良二先生は、長年にわたる研究を振り返り、研究における姿勢をお示しいただきました。後進として貴重なメッセージをいただきましたことに感謝申し上げます。学会賞を受賞された3名の会員の皆様からは、学会ニュースならではの、研究テーマへの取り組みに関わる率直な思いを綴っていただきました。

そして、学会が新たに取り組み始めた「長期会員制度」、機関誌における「エディターズ・キック」の導入について、また、研究歴の短い研究者を対象とした「CS-NET」についての紹介を掲載いたしました。次々と導入する学会の新たな企画については、今後も時を違えずに伝えてまいりたいと考えております。是非、ご意見をお寄せください。

「クローズアップ・これからの社会福祉に期待すること」は、今号はお休みさせていただきました。次回にご期待ください。

今号が発行される時期、日本では、新型コロナウイルス感染症(Covid-19)は、小康状態を保っているように見えます。今は、次の波に備えて行うべきことを、時をおかず実行に移すタイミングであるといえます。学会として、また学会員として、先を見通しながら、諸々の課題に取り組んでいかねばと願っております。

高山 恵理子(上智大学)